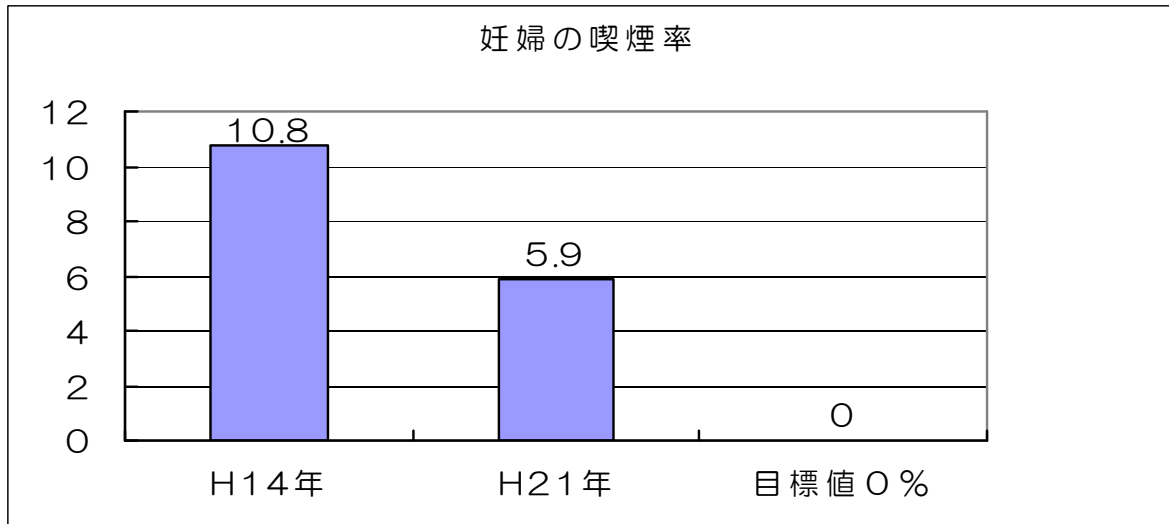


④ たばこ

現 状

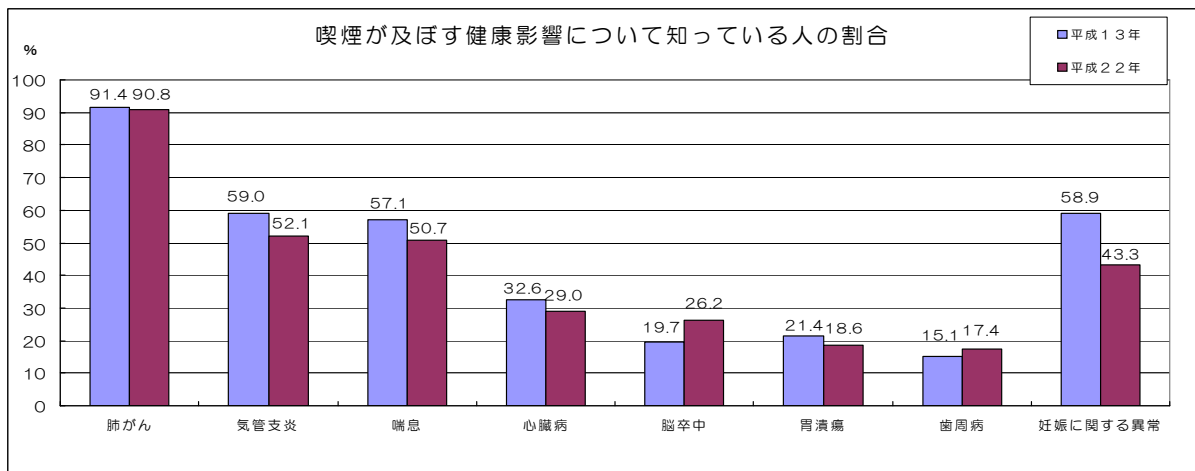
○妊娠中の喫煙はお腹の赤ちゃんの発育に影響を及ぼします。「母子健康手帳交付時状況」によると、妊婦の喫煙率は平成14年度10.8%に比べて平成21年度5.9%と改善しています。

「母子健康手帳交付時状況より」



○喫煙が及ぼす健康影響について知っている人の割合は、肺がん90.8%、気管支炎52.1%、喘息50.7%、心臓病29.0%、脳卒中26.2%、胃潰瘍18.6%、歯周病17.4%、妊娠に関する異常43.3%であり、平成13年度より全体的に知っている人の割合が悪化傾向にあります。

「生活習慣関連アンケート調査 (H22) より」



課題

- 妊娠中の喫煙率0%に向け、母子健康手帳交付時に喫煙が及ぼす健康障害に関する知識の普及を図る必要があります。
- 喫煙が及ぼす健康影響について、知っている人の割合を増やすため、広報や特定保健指導などを通じて、知識の普及を図る必要があります。
- 未成年者の喫煙を減らすため、大人がその害を知り、未成年者の喫煙を止めさせる必要があります。また、喫煙防止のための授業の機会を継続的に設けていく必要があります。
- 不特定多数の人が集まる公共の場所や職場での禁煙・分煙を徹底するため、「受動喫煙防止対策施設」※15の登録数を増やす必要があります。

※ 15「受動喫煙防止対策推進施設」

健康増進法第25条の規定により、多数の人が利用する施設の管理者は、受動喫煙を防止するための必要な措置を行うことを求められています。この規定にそった、受動喫煙防止対策を実施していると施設は認証を受けています。

健康豆知識

○受動喫煙について

他人が吸っているたばこの煙を吸うことを「受動喫煙」といいます。「受動喫煙」は、たばこを吸っていない人に対して、がんや心臓疾患、呼吸器疾患など、さまざまな健康障害を引き起こすことがわかっています。また、たばこの煙から出る有害物質は、主流煙に比べ副流煙の方が、濃度が数倍高いこともわかっています。

● たばこの煙から出る有害物質 ●	
主流煙 喫煙者が吸うたばこの煙	副流煙 たばこの火から立ち上る煙
ニコチン 0.46mg (血流を悪化)	ニコチン 1.27mg (血流を悪化)
タール 10.2mg (やに・発がん物質)	タール 34.5mg (やに・発がん物質)
一酸化炭素 31.4mg (酸素不足を招く)	一酸化炭素 148mg (酸素不足を招く)

資料 厚生省(現在厚生労働省)編「喫煙と健康」第2版(2002)

主流煙 副流煙

たばこの煙は、喫煙時にたばこ自体やフィルターを通過して口腔内に達する「主流煙」と、これが吐き出された「呼出煙」、及び点火部から立ち昇る「副流煙」に分けられます。各種有害物質の発生は主流煙より副流煙の方が多く、主流煙は酸性ですが、副流煙はアルカリ性で、目や鼻の粘膜を刺激します。

○受動喫煙防止対策実施認定施設データベース「タバコダメダス」は、以下を開いてご確認ください。

<http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/tobacco/damedas/damedas.html>

また、禁煙したいときには、「禁煙サポーターズ」を検索してください。